

繰り返す口内炎に 補中益気湯が奏効した二症例



近田 直子 先生

東京女子医科大学附属東洋医学研究所

1992年 東京女子医科大学医学部 卒業、同年内分泌内科(第2内科) 入局
2000年 東京女子医科大学医学部大学院(内科学) 博士課程 修了
2005年 東京女子医科大学病院 東洋医学研究所 研究生
2007年 東京女子医科大学 助手
2010年8月～現職

はじめに

口内炎は痛みや不快感を伴い、口腔内に繰り返し現れるため、患者のQOLを損なう難治性の疾患である。根本的な治療はなく、主に口腔用ステロイド剤やビタミン剤など対症療法が用いられる。

口内炎は外傷性やウイルス性、カンジダ性のほか、まれにベーチェット病や膠原病、悪性疾患も隠れていることがあるため、2週間以上続く場合は専門医による精査が必要となることもある。

症例1

症 例：81歳 男性。

主 訴：口内炎を繰り返す、疲れやすい。

合併症：胃潰瘍、虚血性心疾患、脂質異常症。

現病歴：X-2年、虚血性心疾患の治療後より疲れやすくなり、带状疱疹も罹患した。風邪を引きやすく眠りは浅い。

X-1年4月頃より頻繁に口内炎を繰り返すようになった。ビタミンB剤、口腔用ステロイド剤などの治療で一旦は軽快するも、再発を繰り返すようになった。歯科受診の際に免疫力をつけるように言われ、X年4月に当科を受診した。

身体所見／東洋医学的所見：図1に示す。

臨床経過(図2)：寒がりで感冒に罹患しやすく、疲れやすい状態で、胃潰瘍の既往もあったため、

補脾が必要と考えた。免疫力をつけたいとの本人の希望もあり、補中益気湯 7.5g/日(分3)を処方した。服薬1～3日後にのぼせ症状が出現したため2～3日間休薬したが、休薬後に症状は速やかに消失したことから再開し、漸増した。

図1 症例1 81歳 男性

主 訴

口内炎を繰り返す、疲れやすい。

合併症

胃潰瘍、虚血性心疾患、脂質異常症。

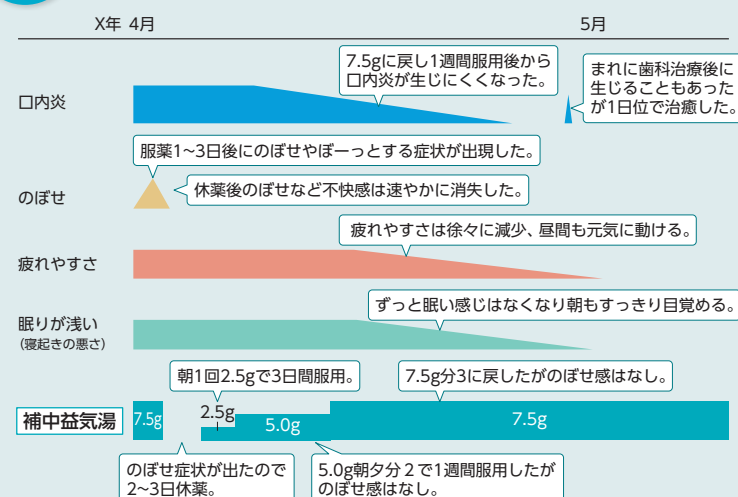
身体所見

身長 167.0cm、体重 60.0kg (BMI 21.5)、血圧 128/62mmHg、脈拍 79/分。

東洋医学的所見

脈候：浮沈中間、やや虚 舌候：淡紅色、薄白苔、歯痕(±)、舌下静脈怒張(±)
腹候：腹力やや軟弱、小腹不仁(±) 四肢：浮腫(±)、冷え(±)

図2 臨床経過



服用量を7.5g/日に戻した1週間後から口内炎は生じにくくなり、疲れやすさ、眠りの浅さも減少した。まれに歯科治療後に口内炎を生じることもあったが、1日程度で治癒した。

症例2

症 例：54歳 女性。

主 訴：慢性口内炎、足の浮腫み、冷え。

合併症：慢性副鼻腔炎、慢性胃炎、逆流性食道炎。

現病歴：X-5年頃より下肢の浮腫みや冷えが徐々に悪化した。重度心身障害者の息子の横で毎晩添い寝をしているが熟睡できず、心身ともに疲れ、口内炎もよくできるようになった。毎晩寝不足で、食後の眠気や全身のだるさもあり、風邪も引きやすく、胃腸の調子も悪く、足も頻回につづっていた。息子の施設入所の希望も叶わず、絶望的な気持ちになっていた。口内炎は他院の治療で一旦は軽快するも、同様に再発を繰り返すようになったため、X年10月に当科を受診した。

身体所見／東洋医学的所見：図3に示す。

臨床経過（図4）：食後の眠気、だるさ、冷え、浮腫みがあり、心身ともに疲れ、胃腸機能も悪く、免疫力も低下して口内炎を繰り返していると考え補中益気湯 7.5g/日（分3）を処方した。また、足がつりやすくなったため、芍薬甘草湯 2.5g/日を処方した。

12月下旬頃に口内炎がほとんどできなくなったため、補中益気湯を一時的に5.0g/日に減量を試みたが、再発するため7.5g/日に戻したところ、以降は口内炎はほとんど再発していない。

考 察

繰り返す口内炎がほぼ消失したのは、補中益気湯の免疫調整作用や抗炎症作用の関与の可能性がある。また、気虚による不眠を改善し、疲労回復を促すとともに、さらに免疫機能を回復し、口内炎を起こしにくくなった可能性がある。

図3 症例2 54歳 女性

主 訴

慢性口内炎、足の浮腫み、冷え。

合併症

慢性副鼻腔炎、慢性胃炎、逆流性食道炎。

身体所見

身長 161.5cm、体重 48.5kg (BMI 18.6)、血圧 104/64mmHg、脈拍 64/分。

東洋医学的所見

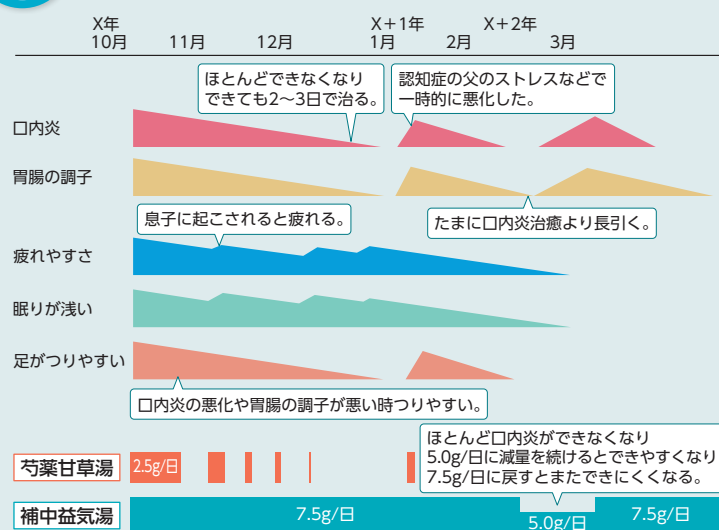
脈候：浮沈中間

舌候：淡紅色、薄白苔、歯痕（±）、舌下静脈怒張（+）

腹候：腹力中等度、左胸脇苦満（+）、腹部動悸（±）、左臍傍圧痛（+）、小腹不仁（±）

四肢：浮腫（+）、冷え（+）、細血管の拡張（+）、皮膚の乾燥（+）

図4 臨床経過



Discussion

木村：口内炎に用いられる半夏瀉心湯との鑑別についてはいかがでしょうか。

近田：2症例ともに倦怠感などの気虚に伴う症状が強かったため、補中益気湯を選択しました。

木村：十全大補湯や人参養栄湯などの補劑との鑑別についてはいかがでしょうか。

近田：口内炎に対して柴胡の免疫調整作用や抗炎症作用が重要と考えました。症例1は脾虚に加え腎虚もありましたが、腹力が軟弱で胃潰瘍の既往もあり、地黄を含まない補中益気湯を用いました。症例2は胃腸の調子が悪くなると口内炎も調子が悪くなるということで胃が弱いこと、さらに胸脇苦満があったので柴胡を含む補中益気湯を選択しました。

木村：補中益気湯の服用で不眠が改善していましたが、どのような不眠だったのですか。

近田：2症例とも眠りの浅さと、寝起きの悪さがありましたが、いずれも改善しました。